

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 親子参加型日本語教室“地球っ子クラブ2000

1. 事業の趣旨・目的

生活者としての外国人にとって、子育ての環境改善は最優先とされるべき課題であると、子どもの日本語指導を通して感じてきた。外国とつながりのある子どもたちが、これからの日本社会の中で自分の能力とルーツを活かして幸せを実現し、また将来の日本を担う人材として成長するためには、子どもの学力や教育の保障が必要である。そのためには、日本社会が多文化共生の意識を持つように変わっていくことが必要であり、また、子育ての主役である親の豊かさが必要であることを子どもたちの現状から思うことも多かった。今回は、子どもたちのしあわせを願い、子育てをする仲間として、外国人も日本人も共に学び合い、また、親自身が日本社会の中で自己実現していけるようなプログラムを考えた。

例えば、家庭内言語や子どもの言語について話す時、～したほうがいい、～すべきだと日本人側が言うのではなく、例えば「夫婦では何語で話す?」「けんかした時は?」という話から始め、子どものことばをどうしているか話すようにした。そのことで、参加しているお母さんたちが「ああ、あの人はこうしているのか」「じゃあ私もそうやってみようかな」「え!私のことばを使ってもいいの?」というように、仲間の意見や経験を聞き、客観的に自分を振り返り、日本での子どもの教育がよりよいものになるきっかけの場になることを目指した。

また、多文化共生社会をめざす一助として、地域社会の一般の人との交流が出来る場となるよう、ボランティアでもなく、学習者でもない日本人の参加を歓迎した。中でも、父親の参加を期待した。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月1日	さいたま市民活動 サポートセンター コムナーレ9F Fテーブル	岩本如貴 遠藤浩之 佐藤美姿 高柳なな枝 芳賀洋子 金子多実枝 阿保裕子 相内弘樹 井上くみこ 小野寺美樹 他	今回の事業の確認 協力態勢の検討 子どもたちの事例	・提示するスケジュール、教材、及び、募集用チラシについて、様々な立場から意見を出し合う。 ・子ども達と直接接している現場から、子どもたちの事例紹介 ・子どもの教育環境を守るために親が教育に積極的に関わられる態勢作りが大切。従って今回のようなプログラムが必要であるということ共有。
8月8日	さいたま市民活動 サポートセンター コムナーレ9F Fテーブル	岩本如貴 遠藤浩之 鏑木隆 加藤一彦 佐藤美姿	これまでの成果 見えてきた課題 子どもたちの事例	・教材があることによって、話がスムーズに出てくることを実感している。 ・情報が届かないもどかしさ。 ・教育委員会、さいたま生協、国際交流協会がそれぞれ広報を検討して協力すること

		高柳なな枝 芳賀洋子 金子多実枝 阿保裕子 相内弘樹 井上くみこ 小野寺美樹 他		を申し出。 ・最近、学齢超過などで、来日しても適切な教育を受ける場に入れない子どもに出会う。一度コースから外れた子どもが能力にあった教育を受けられるよう改善していく必要がある。放置すると社会問題になるのではないか。
2月22日	さいたま市民活動 サポートセンター コムナーレ9F Hテーブル	岩本如貴 鏑木隆 佐藤美姿 高柳なな枝 芳賀洋子 金子多実枝 阿保裕子 相内弘樹 井上くみこ	事業終了の報告 (参加者数、国籍、 成果、その他) これからの課題 子どもの事例	・親が何でも言える場の大切さがわかった。 ・子どもも言いたいことがたくさんあることに気付いた。(子どもハッピー教材の誕生) ・子育てについてのお父さんの姿勢が問題になることが多い。 今回のような場に、お父さんを巻き込んでいくプログラムを考えていく必要がある。

【写真】

3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 語り合おう！^{まな}学び合おう！「多文化^{こそだ}子育てハッピープログラム」
- (2) 開催場所 さいたま市立植竹公民館 埼玉コーププラザ浦和 さいたま市立七里公民館
- (3) 学習目標

外国につながるのある子どもたちが、その子どもにあった教育が受けられ、適切な進路に進めるように、親同士が話し合い、学びあって、日本の教育環境について理解を深める。また、子どもの教育の主役である親が、自信を持って長期にわたる子育て・教育にあたるように、仲間との繋がりを持ち、自国のことばや文化に誇りを持ち、日本社会の中で活躍することをめざす。

- (4) 使用した教材・リソース 自主制作教材『にほんご宝船』『クラスメートは外国人』他
- (5) 受講者の募集方法

①チラシ

- ・さいたま市教育委員会を通して日本語指導を受けている児童生徒が在籍する学校へ配布
- ・埼玉市民活動サポートセンターの掲示板およびチラシ置き場

②生協の広報誌

③埼玉県国際交流協会のニュースレター

- (6) 受講者の総数 45 人

(出身・国籍別内訳))

中国13人(子ども10人) パラグアイ1人 フィリピン5人
スリランカ4人 台湾1人(子ども1人) オーストラリア2人(子ども1人)
モンゴル1人(子ども1人) ロシア3人(子ども4人) ベトナム4人(子ども5人)
インドネシア2人(子ども1人) マレーシア1人 パキスタン1人(子ども1人)
韓国3人(子ども1人) タイ3人(子ども2人) バングラディシュ1人(子ども2人)

(7) 開催時間数(回数) 63 時間 (全 30 回)

(8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月9日 13:30~15:30	2時間	大人2人 子ども2人	モンゴル・モンゴル語(1人) 台湾・中国語(1人)	教授者1人 補助者2人	ハッピープログラムを行うに当たって
②	7月14日 14:00~16:00	2時間	大人6人 子ども5人 他 大人1人 子ども1人	モンゴル・モンゴル語(1人) 中国・中国語(2人) タイ・タイ語(1人) ベトナム・ベトナム語(1人) フィリピン・セブアノ語(1人)	教授者1人 補助者2人	「子どもの職業と将来」 <自主テキスト> <書籍>「好き」から見つける なりたい職業ガイドブック PHP研究所
③	7月21日 14:00~16:00	2時間	大人3人 子ども3人 他 大人1人 子ども1人	中国・広東語(1人) タイ・タイ語(1人) フィリピン・セブアノ語(1人)	教授者1人 補助者2人	「給食とお弁当」 <自主テキスト> 学校生活① 絵本『はじめてのおべんとう』 なとりちづ
④	7月23日 13:30~15:30	2時間	大人3人 子ども3人 他 大人1人	中国・広東語(1人) タイ・タイ語(1人) フィリピン・セブアノ語(1人)	教授者1人 補助者2人	<自主テキスト> 子どもの職業と将来
⑤	7月28日 14:00~16:00	2時間	大人5人 子ども4人 他 大人1人	モンゴル・モンゴル語(1人) 中国・中国語(2人) ベトナム・ベトナム語(1人) フィリピン・セブアノ語(1人)	教授者1人 補助者2人	「学校給食を作ってみよう」 献立表、給食だより
⑥	8月6日 13:30~15:30	2時間	大人9人 子ども6人 他 大人1人	中国・中国語(5人) ニュージーランド・英語(1人) フィリピン・セブアノ語(1人) 日本・日本語(2人)		「親子で自由研究」 <参考資料> 実験・手作りアイスクリーム 氷と塩でできるアイスクリームの作り方
⑦	8月11日 14:00~16:00	2時間	大人6人 子ども3人 他 大人1人	モンゴル・モンゴル語(1人) 中国・中国語(1人) ベトナム・ベトナム語(1人) フィリピン・セブアノ語(1人) パラグアイ・スペイン語(1人) 中国・広東語(1人)	教授者1人 補助者2人	「パネルシアターを作ろう」「地域でお話会の準備」 <絵本>『はらぺこあおむし』
⑧	8月25日 10:30~12:30	2時間	大人7人 子ども7人 他 大人1人 子ども1人	モンゴル・モンゴル語(1人) 中国・中国語(2人) ベトナム・ベトナム語(1人) パラグアイ・スペイン語(1人) ロシア・ロシア語(1人) パキスタン・日本語(1人)	教授者1人 補助者2人	「地域に発信！多言語絵本の読み聞かせ」 手作りパネルシアター 『はらぺこあおむし』(スペイン語) 『おならおじいさん』(モンゴル語) 絵本『おおきなかぶ』(ロシア)

						語)
⑨	8月27日 13:30~15:30	2時間	大人5人 子ども6人 他 大人2人	中国・中国語(3人) ロシア・ロシア語(1人) パキスタン・日本語(1人)	教授者1人 補助者2人	「親子で昔話の絵本を楽しもう」 国語教科書『世界のむかしばなし』から 世界の昔話の絵本多数 <自主テキスト>えほんをよもう
⑩	9月8日 14:00~16:00	2時間	大人7人 子ども6人 他 大人3人 子ども1人	中国・中国語(2人) タイ・タイ語(1人) フィリピン・セブアノ語(2人) パラグアイ・スペイン語(1人) モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者1人 補助者2人	「親子で昔話の絵本を楽しもう」 国語教科書『世界のむかしばなし』から 世界の昔話の絵本多数 <自主テキスト>えほんをよもう
⑪	9月10日 13:30~15:30	2時間	大人6人 子ども3人	中国・中国語(2人) タイ・タイ語(1人) フィリピン・タガログ語(2人) モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者1人 補助者2人	「子どもの教科書を見てみよう」 <自主テキスト>学校生活② 教科書、ドリル(国語・算数) ・時間割表 一日の流れ
⑫	9月15日 14:00~16:00	2時間	大人3人 子ども3人 他 大人1人	中国・中国語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者1人 補助者2人	「子どもの将来②学習と宿題」 <自主テキスト> 学校生活② <書籍>学校の世界地図
⑬	9月22日 14:00~16:00	2時間	大人2人 子ども1人 他 大人1人	パラグアイ・スペイン語(1人) 中国・広東語(1人)	教授者1人 補助者2人	台風 「先輩ママと話そう！」 <自主テキスト>思春期
⑭	9月24日 13:30~15:30	2時間	大人4人 子ども2人	中国・中国語(1人) フィリピン・タガログ語(3人)	教授者1人 補助者2人	「通知表。良い子とは？」 <自作テキスト>成績 行動の記録
⑮	10月6日 14:00~16:00	2時間	大人4人 子ども3人 他 大人2人 子ども1人	中国・中国語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) パラグアイ・スペイン語(1人) パキスタン・日本語(1人)	教授者1人 補助者2人	「親が学校に行くのはいつ？」 <自主テキスト> 予防注射と病気と病院 学校生活(PTA・参観日)
⑯	10月8日 13:30~15:30	2時間	大人10人 子ども5人 他 大人4人	パラグアイ・スペイン語(1人) タイ・タイ語(1人) フィリピン・タガログ語(3人) 中国・中国語(2人) 台湾・中国語(2人) ロシア・ロシア語(1人)	教授者1人 補助者4人	『ボクのママが生まれた島セブ』の作者おともやすおさんの講座「みんな絵本作家！」

⑰	10月13日 14:00~16:00	2時間	大人5人 子ども3人 他 大人2人 子ども1人	パラグアイ・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) 中国・中国語(1人) モンゴル・モンゴル語(1人) マレーシア・中国語(1人)	教授者1人 補助者2人	「自分の国の絵を描こう」
⑱	10月20日 13:30~15:30	2時間	大人6人 子ども3人 他 大人1人 子ども1人	中国・広東語(1人) 中国・中国語(1人) パラグアイ・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) パキスタン・日本語(1人) モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者1人 補助者2人	「先輩ママと話そう！」 ＜自主教材＞家庭のことば ＜絵本＞『はらぺこあおむし』
⑲	10月29日 13:30~15:30	2時間	大人10人 子ども9人 他 大人2人	ベトナム・ベトナム語(2人) バングラディッシュ(1人) パラグアイ・スペイン語(1人) 中国・中国語(3人) フィリピン・タガログ語(3人)	教授者1人 補助者2人	「自分の国の絵を描こう」
⑳	11月5日 10:30~15:30	5時間	大人11人 子ども4人	パラグアイ・スペイン語(1人) 中国・中国語(3人) 日本・日本語(1人) フィリピン・タガログ語(3人) フィリピン・セブアノ語(1人) モンゴル・モンゴル語(1人) マレーシア・中国語(1人)	教授者1人 補助者2人	「国際フェアに参加しよう」 ＜自主教材＞子どもハピプロ
㉑	11月10日 14:00~16:00	2時間	大人6人 子ども5人 他 大人2人 子ども1人	中国・中国語(2人) パラグアイ・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) パキスタン・日本語(1人) モンゴル・モンゴル語(1人)	教授者1人 補助者2人	「ほめる時、おこる時」 「子守歌」 ＜自主教材＞ ほめる時、おこる時 子守歌
㉒	11月17日 14:00~16:00	2時間	大人10人 子ども2人	中国・中国語(2人) パラグアイ・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) ガーナ・英語(1人) スリランカ・シンハラ語(2人) 中国・広東語(1人) マレーシア・中国語(1人) 韓国・韓国語(1人)	教授者1人 補助者1人	「学校給食を作ってみよう②」と食育 ＜自主テキスト＞ 給食献立表(さいたま市小学校、川口市小学校自校方式)
㉓	11月24日 14:00~16:00	2時間	大人7人 子ども4人 他 大人2人 子ども1人	中国・中国語(2人) スリランカ・シンハラ語(3人) インドネシア・インドネシア語(2人)	教授者1人 補助者2人	「緊急時の連絡と連絡網について」 ＜自主教材＞緊急連絡
㉔	11月26日 13:30~15:30	2時間	大人6人 子ども5人	ベトナム・ベトナム語(1人) スリランカ・シンハラ語(1人) パラグアイ・スペイン語(1人)	教授者1人 補助者2人	「地域や学校での友だち付き合いについて」 ＜自主テキスト＞学校生活②

			他 大人1人	中国・中国語(3人)		学校生活(PTA・行事)
㉕	12月1日 10:00~12:00	2時間	大人14人 子ども7人 他 大人5人 子ども3人	パラグアイ・スペイン語(1人) モンゴル・モンゴル語(1人) 中国・中国語(4人) スリランカ・シンハラ語(2人) パキスタン・日本語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) インドネシア・インドネシア語(1人) ロシア・ロシア語(3人)	教授者1人 補助者2人	地域に発信 「ロシア料理講習会」 ロシア料理レシピ
㉖	12月10日 13:30~15:30	2時間	大人8人 子ども7人	ベトナム・ベトナム語(1人) バングラディシュ・(1人) 中国・中国語(2人) フィリピン・セブアノ語(1人) インドネシア・インドネシア語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) パラグアイ・スペイン語(1人)	教授者1人 補助者2人	「学校との関わり方と 時間割」 ＜自主テキスト＞学校生活② 学校生活(PTA・行事)
㉗	1月5日 10:00~12:00	2時間	大人10人 子ども5人 他 大人4人 子ども1人	インドネシア・インドネシア語(1人) モンゴル・モンゴル語(1人) パキスタン・日本語(1人) 韓国・韓国語(1人) パラグアイ・スペイン語(1人) マレーシア・中国語(1人) スリランカ・シンハラ語(2人) フィリピン・タガログ語(1人) 中国・中国語(1人)	教授者1人 補助者2人	「お雑煮で交流会&お はなし会に向けての練 習」 パネルシアター『カレーライス の歌』 絵本『はらぺこあおむし』 絵本『しんせつなともだち』
㉘	1月14日 13:30~15:30	2時間	大人7人 子ども7人 他 大人2人 子ども2人	中国・中国語(3人) フィリピン・タガログ語(3人) ベトナム・ベトナム語(1人)	教授者1人 補助者2人	「連絡帳について」 ＜自主テキスト＞ 学校との連絡
㉙	1月28日 13:30~15:30	2時間	大人4人 子ども6人 他 大人3人	ベトナム・ベトナム語(1人) 中国・中国語(2人) パラグアイ・スペイン語(1人)	教授者1人 補助者2人	「家庭のことば・家族の 呼び名・自分の名前」 ＜自主テキスト＞ 家庭のことば なまえ
㉚	2月11日 15:00~17:00	2時間	大人8人 子ども5人 他 大人6人 子ども2人	ベトナム・ベトナム語(1人) 韓国・韓国語(2人) 中国・中国語(3人) 日本・日本語(1人) パラグアイ・スペイン語(1人)	教授者1人 補助者2人	地域に発信「ベトナム料 理を作ろう」

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

添付ファイル 活動報告・写真

4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

<学習者の参加人数について>

- ・この1年の間に45人の方が、このプログラム(地球っ子クラブ、Coconico からのアクセスも含む)に参加してくれたが、定期的に参加してもらうことは難しかった。
- ・理由として、
転入、転出が多いこと／子育て中の親子にとってコンスタントに参加することは不可能に近いこと／子どもの年齢によって関心事が異なること／このような学びの必要性を伝えきれなかったことなどがあげられる。

<学習の形式について>

- ・当初の予定では、「介護の講座」にならってクラス形式で講座を進めたいと考えていた。
しかし、参加した学習者の状況やニーズがあまりに違いすぎてクラス形式が無理であることはすぐにあきらかになった。そこで、予想される学習内容を作っておき、その都度、学習者の顔を見て、グループ編成と学習内容を決めていく方法に切り替えた。この方法は参加者が言いたいことをたくさん話すいい契機になった。

<学習内容の的確性について>

- ・予定していた参加人数、学習形式(10~15人くらいのクラス形式での学習を考えていた)は断念したが、ハッピープログラムの学習内容については、子育て中の親にとって、関心の高いものであり、かつ必要性の高いものであることに確信が持てた。生活者としての外国人のための学習項目として、「テーマで学ぶ子育て、教育」があっという間ではないかと思う。

<子育ての仲間づくりについて>

学習を通して、親同士のつながり(日本人スタッフ、参加者を含めて)を作ることができた。

これからの長い子育ての期間を通して、子どもたちの教育環境をより豊かなものにしていくために仲間がいることが重要な条件になると思う。

また、異年齢の子どもたち(これも、日本人外国人を含めて)との交流、多言語(日本語、お母さんの母語)で絵本を読みあつたり、子守歌を歌ったりという活動が子どもにとってもいい刺激になって成長することも確認できた。

<外国出身の人の地域への発信について>

多言語絵本の読み聞かせ、地域の人に向けた料理教室を開いた。

さいたま市のような分散地域においては、外国出身の隣人に対する地域の人たちの理解が進むことが多文化共生社会のために必要である。このような会を通して、外国の人と普通にふれあうことで外国の人の住みやすい町作りがすすみ、外国人にとっては生活する上での日本語の力が養われたものと思う。

(2) 学習者の習得状況

- ・このようなプログラムが、自分と子どもに必要であることを感じた参加者は参加率もよく、多くの仲間ができ、たくさん話し、活躍するようになり、生活圏も広がったと思う。子どもも、目に見えた成長をみせ、楽しみながら豊かにこれからの子育てしていけるものと思う。

しかし一方で、このようなプログラムの必要性を理解してもらうことの方が難しいと思えることも多かつ

た。1回のみでの参加で終わってしまった人たちに対して、さらにもう一步の働きかけをしていくことの難しさを感じている。

・多言語のおはなし会、絵本作家の講座の成果は大きい。

自分の国の絵を描き続けている人もいる。おはなしや、子守歌を掘り起こした人もいる。

そして、子どもたちが、ママの言葉と活躍を喜べるようになったことがほほえましくうれしい。

・おはなし会、料理講習会など、地域に発信することにより、多文化共生の輪が少し広がったと思う。

(3) 日本語教室設置運営の効果, 成果

・母親が人の前でおはなし会などに出演したりするのを小さい子供たちが見て、目に見えた効果が出てきている。さらにたくさんのお話や歌を開拓して、発表できるようにしたい。

出演の機会も増やしていけるよう、関係各所に働きかけていきたい。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

文化庁の委嘱事業であることにより、より多くの関係団体と連携し、話し合う機会が持てた。

現場で子どもたちと接している中で受け取った子どもたちからのメッセージを伝え、子どもたちの状況を理解していただく良い機会となった。

<図書館>

他言語での読み聞かせを取り上げていただくよう働きかけ、実現した。

市民の方の関心は高く、多くの親子や子どもたちに聞いてもらうことができた。図書館の方にも、新しい試みとして興味を持ってもらえた。今後は内容やレパトリーを充実し、さらに出番を増やしてもらえよう働きかけていきたい。

<さいたま市教育委員会> <さいたま市の小学校>

子どもたちの教育を考えると、ボランティアと学校関係の連携は必須であるが、なかなか進んでいないのが現状である。その中で今後の連携に向けたうれしい効果があった。

・チラシ配布について、各学校に配るなど異例の協力をいただけた。その効果はほんの数件にとどまったが、大きな意義があったと思う。

・そのハッピープログラムをみた先生がクラスの対象者に紹介し、こちらにも直接連絡して下さった。

・七里地区の子どもたちの親を講師とするベトナム料理教室に学校の先生方が参加して下さった。

子どもと親の環境にいち早く気付くには、学校や担任の先生の力が欠かせない。これからもっと連携の力をつけていきたい。

<埼玉県国際交流協会> <さいたま生協> <ユニセフ埼玉県事務所>

平素から、地球っ子クラブ2000やCoconicoの活動に関して理解と、協力をいただいている。今回はハッピープログラムの趣旨と必要性を共有し、広報、活動場所の確保等に多くのサポートをいただけた。

これからもこのような連携を支えに、活動を発展させていきたい。

<さいたま市市民活動サポートセンター>

サポートセンターは、さいたま市で活動する多くのNPOやボランティア団体が集まる場所である。

今回、このプログラムがきっかけになり、初めてフェスティバル(3月3, 4日に)参加した。外国籍の人が多く暮らしているにもかかわらず(全国で5番目の県)分散型であるため一般には知られていない。

このような場に参加することにより、市民の理解や、他団体との連携が進むものと期待がもてた。

(5) 改善点, 今後の課題について

① 現状

今回参加した中に、来日後何年も経っているのに、ほとんど外に出ず、日本語も話す機会がないまま自信なく子育てしている人が複数いた。日本語ができるようになってからと思っていると、一歩外に出ることのハードルがかえって高くなるように思う。一方で、来日後すぐに子連れで参加してきた人は、日本語でのコミュニケーションの進歩が実感できて、仲間もでき、全く違う生活になっていると感じた。思い切って参加してきた1回をどう繋げていこうかが問われている(大人の場合も子どもの場合も) また、こうした中で、家庭や父親(日本人)の参加を期待したい。

② 今後の課題

- ・子育て、教育に関する話題集の完成度を高めて、必要な時に使えるようにすること。
- ・多言語でのおはなし会や絵本づくりなどが軌道に乗りつつある。さらにおはなし会の構成に工夫を凝らし、発信の機会を増やしていく。

③ 今後の活動予定, 展望

さいたま市のような分散型の地域では、外国出身者が自分自身で活躍の場を見つけることはなかなか難しい。そして、活躍の場があることで自分に自信を持ち、子育てはもちろん、言葉の面でも、その他の生活場面でも、力を発揮していけるものと思う。

そのような観点から、来年に向けた活動予定は大きく分けて3方向ある。

1) ハッピープログラムの教材の充実

よく参加した親子の様子から、このような取り組みが大切であることはわかった。

来年は一年かけて、今年作成した話題を使いながら校正し、内容をより適切なものにしていき、より広い子育て世代に活用してもらえよう、話題集として完成させたい。

2) 多言語の絵本の読み聞かせの発展

Coconico での日本語や母語を使った絵本や手あそびや、子守唄の活動が、外国人の活躍の場となり、家庭内で母親の言葉を大切にすきっかけとなり、親の学びの場に子どもたちがいることが子どもの成長にも力があることがわかった。来年度はそれぞれの国のおはなしの掘り起こしにもとりかかり、絵本や紙芝居、パネルシアターにまとめる活動を広げて、レパトリーを増やし、より地域の人たちに喜んでもらえる力をつけていきたい。お話会の回数も増やしていきたい。

大人向けに文化紹介も兼ねた多言語絵本の読み聞かせも実現していきたい。

3) 料理教室の展開

地域の人たちに最も気軽に喜んでもらえるのが料理教室である。今回のプログラムで2回地域の人に向けた料理教室を開いて手応えを感じたので、料理を紹介し、作り、食べながらお互いに交流しあえる場(多文化料理教室とか世界のお茶カフェとか)を定期的につけていきたい。

外国出身者が講師となって、日本人がコーディネーターとなってその活動を広げていくのがベストと考える。

(6) その他参考資料